

武蔵野市補助器具センター
あり方検討委員会報告書
概要版

平成 28 年 8 月
高齢者総合センター武蔵野市補助器具センター

第1章 「武蔵野市補助器具センターあり方検討委員会」設置の背景

介護保険制度導入後のセンターの役割の変化

■武蔵野市補助器具センター（以下「センター」）は、平成5年7月より「補助器具及び住宅改善に関する総合相談、情報提供及び関係機関とのネットワークの拠点」として、市の補助器具貸与等の事業を受託してきたが、介護保険制度導入以降、サービスの質の確保や適正化等に事業が移行したことで、「センター運営実施要綱」「名称」とセンターの実情が合わなくなっており、市民、関係者から役割が見えにくくなっていた。

組織、専門職の活用方法について検討の必要性

■センターにはリハビリテーション専門職が配置されているが、今後の組織のあり方、後進の育成をはじめとした武蔵野市福祉公社（以下「公社」）における専門職の活用方法についても検討する時期に来ていた。

今後の社会背景の変化への対応

■今後の後期高齢者の激増、医療・介護の連携の必要性、介護保険制度の次期改正や、「武蔵野市における2025年へ向けた“まちぐるみの支え合いの仕組みづくり”」の構築等に対応できるように、これからのセンター事業を展開していく必要があった

事業を検証し、センターの役割・組織のあり方を見直し、今後の方向性を示す必要がある
 ⇒「補助器具センターあり方検討委員会」を設置

※ 第2章、第3章 については、省略

第4章 センターの現状

1 事業内容

■ 住宅改修・福祉用具等の相談窓口

- ・市民、関係機関を対象とした総合相談窓口機能
- ・訪問・電話・来所による市民、専門職を対象とした個別相談

■ 市の独自事業の実施

- ・補助器具貸与給付事業
- ・住宅改善事業

■ 住宅改修適正化事業

- ・事前申請書類の全件審査
- ・訪問調査

■ 広報、普及、展示

- ・市民に対するミニ講座の開催、講師派遣
- ・福祉用具等の相談会の実施
- ・カタログ等の展示

■ 人材育成

- ・研修会の実施、講師派遣
- ・スキルの伝達

■ 関係機関との連携

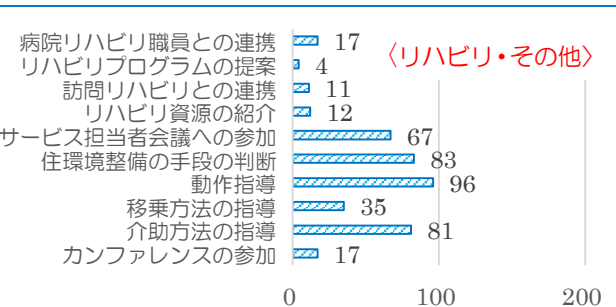
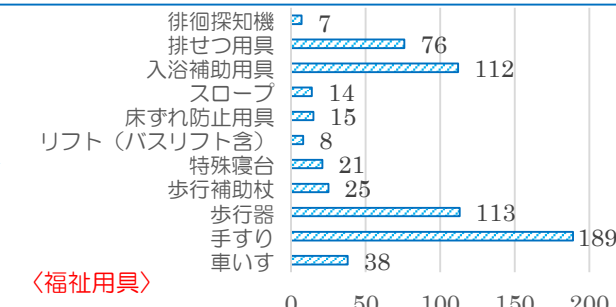
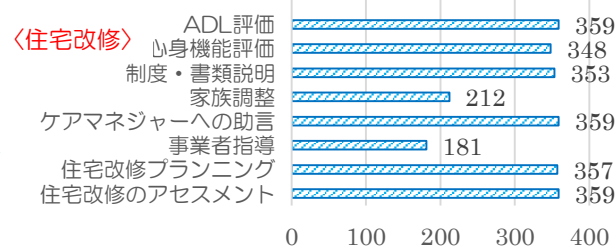
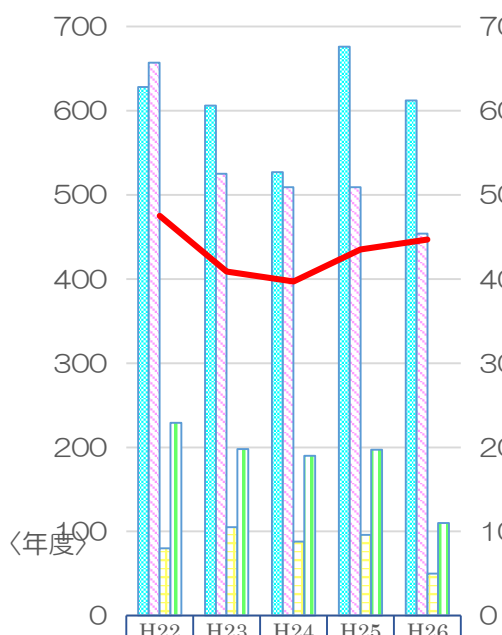
■ 福祉用具の短期貸出

■ 専門相談

- ・排泄相談
- ・言語聴覚士 等

2 各事業の実施状況 (出典 武蔵野市補助器具センター統計資料)

■ 住宅改修・福祉用具・リハビリ等に関する訪問相談実績推移と相談内容詳細 (H26年度)

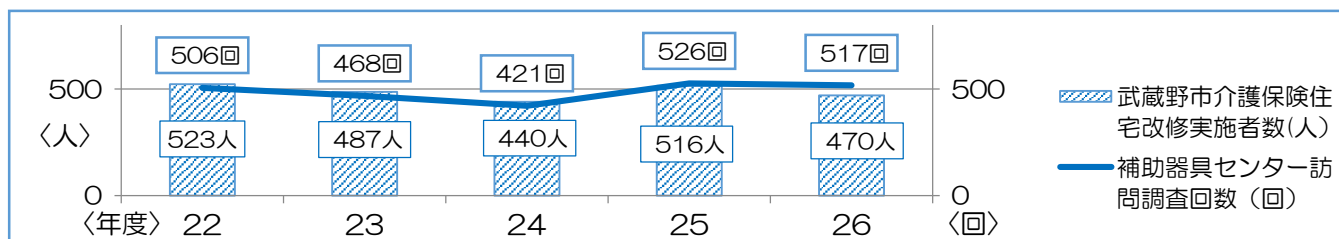


■ 介護保険制度住宅改修適正化事業 実施状況 (出典 武蔵野市介護保険利用者数より抜粋)

〈介護保険制度住宅改修事前申請書類審査実績〉

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	累積審査数
審査件数	393	418	442	480	532	496	474	514	524	4,273

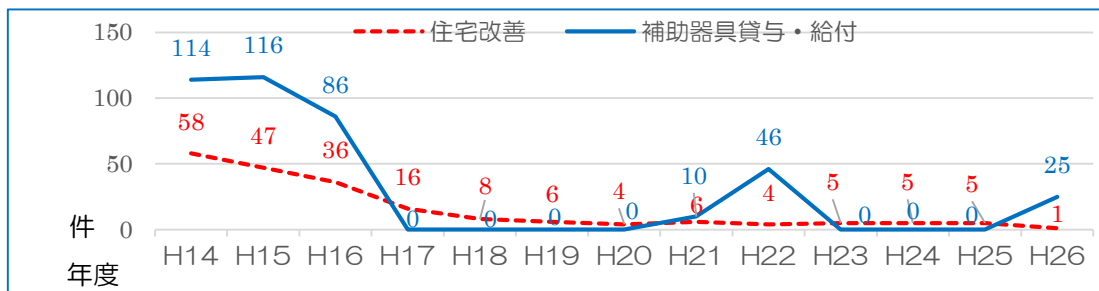
〈介護保険制度住宅改修実績(人)と補助器具センターによる事前訪問調査(回数)の推移〉



〈平成26年度 介護保険制度住宅改修実績とセンターによる事前調査・審査数と割合〉

延件数	実施者数	事前訪問調査数		事前書類審査件数	
		調査数	割合	審査実施件数	住宅改修実施者の審査割合
592件	470人	359人	76.4%	524件	100%

■ 市の「補助器具貸与・給付事業」、「住宅改善」事業の実績 〈件数〉(H14~26年度)



(出典 武蔵野市の福祉より抜粋)

■ 広報・普及・展示 (H26年度実施 研修・ミニ講座)

- ・福祉用具相談会(市役所高齢者支援課共催・市役所ロビー)
- ・コミュニティカフェ 福祉用具の展示・排泄ミニ講座(高齢者総合センター)
- ・テーブル菜園スタッフ講座 高齢者の身体特性(市民農園)
- ・地区別全体研修会 補助器具センターについて(高齢者支援課)
- ・家族介護支援教室 みどりの輪 福祉用具の使い方(高齢者総合センター在宅介護支援センター)
- ・家族介護支援教室 腰痛にならない福祉用具の使い方(ナーシング在宅介護支援センター)
- ・心とからだの健康講座 脳と手のトレーニング(高齢者総合センター社会活動センター)
- ・東学園生徒対象 車いす講座(学校法人武蔵野市東学園)
- ・桜堤ケアハウス 福祉祭り 福祉用具の使い方(桜堤ケアハウス)
- ・UR健康講座 靴の選び方について(緑町公団自治会協議会)
- ・「ひびのさんち」相談会 床からの立ち上がり方ワンポイント講座(ひびのさんち)

■ 人材育成 (H26年度 講師派遣・研修会共催・研修会の開催)

- ・介護職員初任者研修講師(ホームヘルプセンター)
- ・市内介護事業者対象 住環境整備のワンポイント講座(ホームヘルプセンター)
- ・訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会 研修会講師 マットレスについて(高齢者支援課)
- ・地区別ケース検討会 福祉機器展同行 ワンポイント講座(本町在宅介護支援センター)
- ・住宅改修事業者向け研修(高齢者支援課主催)

■ 関係機関との連携

- ・【訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会】
隔月開催時参加
- ・【福祉用具事業者連絡協議会】
開催時参加
- ・【武蔵野市PT・OT・ST協議会】
平成28年3月設立任意団体

■ 福祉用具の短期貸出〈件数〉(H26年度)

(出典 補助器具センター統計資料)

種目	件数	種目	件数
車いす	194	ポータブルトイレ	64
スロープ	2	補高便座	7
歩行器、杖、歩行関連	16	シャワーイス	75
体位変換器、吊り具等	22	浴槽内イス	37
自助具	5	他入浴用具	64
合計(件数)			486

※ 第4章3, 4 については、省略

第5章 課題について

1 センター事業の位置づけと役割の明確化

- ・現状に即したものに「補助器具センター実施運営要綱」「名称」等を変え、役割を示していく必要がある

2 住環境整備の支援体制の充実とサービスの質の確保

- ・今後予測される人的資源の不足を補うため、住環境整備の支援体制を更に充実させていく必要がある

3 介護保険制度適正化事業の継続・拡充

- ・制度の持続可能性、より効率的な制度利用のため、適正化事業を更に拡充する必要がある

4 次期介護保険制度改正への対応

- ・「住宅改修」、「福祉用具貸与・給付」の総合事業の実施等に関して保険者と共に対応していく必要がある

5 住環境整備等における人材育成の必要性

- ・住環境整備の支援ができる市内専門職の育成のため、体系的な研修等を実施していく必要がある

6 専門相談の方向性

- ・各専門相談のニーズを見極め、必要に応じて見直し、差別化、拡充を図っていく必要がある

7 組織運営上の課題

- ・現在の職員の専門性、経験を組織内で後進に伝達し、リハビリ専門職の育成を図る必要がある

第6章 課題を解決するために～センターの方向性と今後の取り組み～

1 センターの方向性 (第6章1, 2)

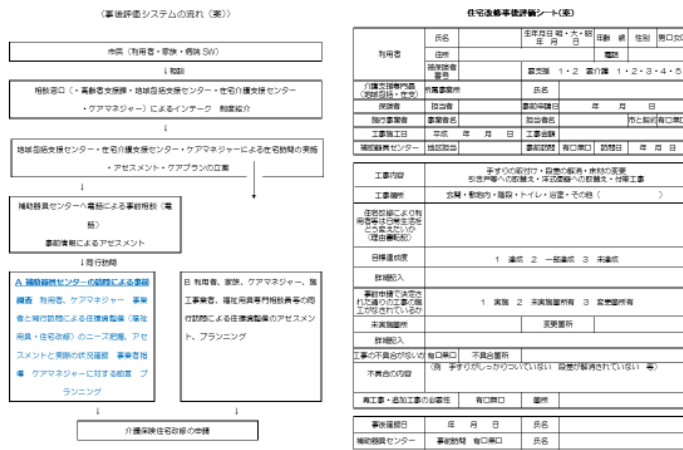
■ 現在実施している事業をセンター事業として明確に位置づけ事業の拡充を図る

- ・「武蔵野市補助器具センター運営実施要綱」「名称」を現状に即したものに見直し、ニーズに応じて事業についても拡充していく
- ・「名称」を変え、誰もが事業内容、役割を解りやすくすることで、「住環境整備の相談窓口」として市民、市内専門職、関係者が相談しやすい身近で開かれたセンターを目指す ※課題(1)(2)に対応

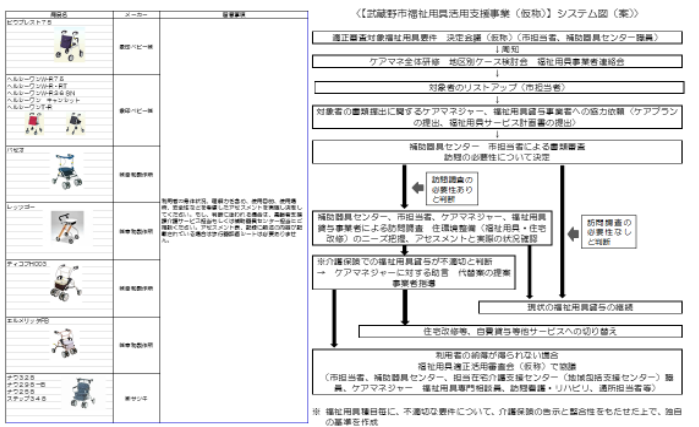
2 具体的な取り組み(第6章3. 4. 5. 6)

■ 介護保険制度の適正化事業の拡充

- ・住宅改修事前申請書類全件審査の継続
- ・住宅改修事後評価モデル事業の実施（評価シートの導入）



- ・福祉用具適正化モデル事業の実施
- ・【武蔵野市福祉用具取扱注意一覧】（保険者に問合せが必要な福祉用具）の周知



※課題(3)に対応

■ 次期介護保険制度改正への対応

- ・住宅改修・福祉用具貸与・給付サービスの総合事業等の受託
- ※課題(4)に対応

■ 人材育成の支援

- ・住環境整備等の体系的な研修等の実施
- ※課題(5)に対応

■ 「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」への参画

- ・地域住民向けミニ講座の開催
- ・「いきいきサロン」等への市内リハビリ専門職の協力体制づくり
- ・専門相談員の活用 言葉カフェ、排泄相談の充実



※課題(6)に対応 ※市の施策への参画

3 会社のリハビリ専門職・センター組織のあり方(第6章7)

■ 会社のハビリ専門職の計画的な採用・育成

- ・センター事業の継続・発展のため、リハビリ専門職の計画的な採用、職員の異動により、専門性・経験を後進に引継いでいく
- ・会社の専門職を育成することにより、組織を活性化させ、将来にわたっても現在以上のサービス水準を維持できる体制を構築していく

※ 課題(7)に対応

資料 事業実施計画 〈新規・拡充事業〉

内容	年度 月	28							29
		9	10	11	12	1	2	3	4～
実施内容	「武蔵野市補助器具センター運営実施要綱」「名称」の見直し								→ 29年度以降検討
	介護保険制度適正化事業の拡充	住宅改修事後評価モデル事業の実施（評価シートの導入）	→→ 実施方法検討		→→ 周知を図る		→→ 試行		→ 試行
		福祉用具適正化モデル事業の実施	→→ 実施方法検討		→→ 周知を図る		→→ 試行		→ 試行
	人材育成	住環境整備等の体系的な研修等の実施					→→→→ 準備・企画		→ 実施
			→→→→→→→ 随時実施						
	「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」への参画	市内リハビリ専門職の協力体制づくり	→→→→→→→ 推進						
専門相談員の活用 言葉カフェの開催、排泄相談の拡充		→→ 準備・周知		→→→→→ 試行				→ 実施	
次期介護保険制度改正への対応	住宅改修・福祉用具貸与・給付サービス等の総合事業等の受託							→ 30年度改正に向けて検討	

〈 検討経過 〉

	開催日	議題
第1回	平成 27 年 8 月 4 日	補助器具センターの沿革、現状と課題、今後の役割について
第2回	平成 27 年 10 月 20 日	補助器具センターの事業仕分け、求められる役割について
第3回	平成 27 年 12 月 21 日	課題の整理と今後のあり方について 補助器具センターあり方検討委員会報告書概要について
第4回	平成 28 年 2 月 5 日	補助器具センターあり方検討委員会報告書（案）について
第5回	平成 28 年 2 月 23 日	補助器具センターあり方検討委員会報告書（案）について

〈 補助器具センターあり方検討委員会 委員 〉 ◎委員長

◎	松原 友子	高齢者総合センター在宅介護支援・補助器具センター長
	堀家 京子	高齢者総合センター在宅介護支援・補助器具センター主任
	石橋 美奈	高齢者総合センター在宅介護支援・補助器具センター主任

〈 市オブザーバー 〉

	長坂 朋子	健康福祉部高齢者支援課相談支援課長補佐
	梅田 信行	健康福祉部高齢者支援課介護保険係長

（平成 28 年 3 月 31 日現在）



公益財団法人

武蔵野市福祉公社